

# 宍粟市社協 第3次地域福祉推進計画

## 2年次進捗報告 参考資料

28年度

29年度

30年度

31年度



「自治会の枠を超えた広域的な集いの場」として、波賀町北部(日ノ原・音水・鹿伏・道谷・戸倉)  
合同のふれあい喫茶が開催されました(11/23 鹿伏公民館)

社会福祉法人 宍粟市社会福祉協議会

# 第3次地域福祉推進計画とは



## 計画のねらい

宍粟市社協では、合併後、平成19年度に「第1次地域福祉推進計画」を、平成23年度に「第2次地域福祉推進計画」を策定し、宍粟市の地域福祉の推進に取り組んできました。その後5年が経過し、それらの計画を継承し「第3次地域福祉推進計画」を策定しました。本計画では、「地域包括ケアシステム」を宍粟市で構築していくために、生活困窮者自立支援法の本格施行や介護保険制度の改正など、福祉関係の各分野において大きな改革が行われる中で、制度改革への対応も含め、社協の立場でどのような具体策を提案していくのかに焦点を充てています。

## 計画の推進期間

2016年度

本計画の推進期間は、平成28年度から平成31年度（2016年度から2019年度）までの4年間とします。ただし、社会情勢の変化や「第2期宍粟市地域福祉計画」と整合を図るために、行政と連携を取りながら計画の進捗状況を確認し、新たな課題には適宜対応していきます。

↓  
4か年計画  
」

2019年度

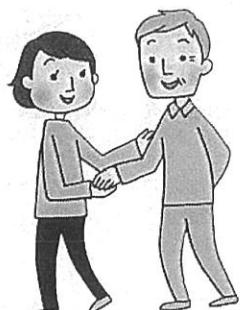
## 地域福祉目標と計画の愛称

本計画では、社協の使命と地域福祉の情勢を踏まえ「だれもが安心して暮らせるふくしのまちづくり～“ほっとけない”をほっとかない宍粟に～」を、今後4年間で宍粟市社協がめざす地域福祉目標として定めました。そして、地域、団体、行政、社協等が連携と協働を図りながら“支え合い”を進める本計画にふさわしい愛称として「支え合いふくしプラン」と名付けました。

だれもが安心して暮らせるふくしのまちづくり  
～“ほっとけない”をほっとかない宍粟に～



支え合い  
ふくしプラン



## 4つの推進目標

### 1 いざという時 困らない地域をつくる

過疎化・人口減少が進み、従来からあった地域での営みが難しくなってきた今、いざという時困らないためには、平時からの取り組みが何より大切になってしまいます。各自治会で組織されている福祉連絡会を中心に、地域での見守り活動を展開し、住民一人ひとりがいつもどこかで誰かとつながっているという安心感が持てるような地域づくりに努めます。



#### 活動項目

1. 地域の見守り活動を進める
2. だれもが気軽に集える居場所をつくる
3. 平時から災害への備えを進める

### 2 みんなで支え合える つながりをつくる

住民だれもが孤立することなく、住み慣れた地域で暮らしていくためには、住民同士によるつながりの再構築が重要です。地域住民やボランティア、民生委員・児童委員、行政、関係団体等、幅広い地域関係者が協働し、支援を必要としている人を地域全体で支え合えるつながりづくりを進めます。



#### 活動項目

4. 地域が元気になる支え合い活動を進める
5. 地域福祉を進めるために地域をたがやす
6. 行政や関係団体等とのネットワークを強化する

### 3 自分らしく生活できる 仕組みをつくる

地域で暮らすすべての人が、年齢や性別、障がいの有無等に関係なく、自分らしく生活できる地域づくりを具体的に進めるには、社協の職種問はもちろん、行政、地域包括支援センター等の関係者同士がしっかりと情報共有を図り、住民のSOSを見逃さない総合相談支援体制を構築できるよう、連携・協働できる仕組みづくりをめざします。



#### 活動項目

7. SOSを見逃さない総合相談支援体制を強化する
8. 情報共有体制の充実をはかる
9. 総合的な権利擁護支援の仕組みをつくる

### 4 社協を強くするための 組織基盤をつくる

社協の基盤強化は、社協自身のためにあるのではなく、地域福祉の推進のためにあります。社協は、住民にとって最も身近な地域福祉を推進する中核団体として、福祉ニーズに対応したきめ細やかな活動を展開しています。そして、宍粟市全域の地域福祉の推進と並行した、地域の特性に合わせた4つの支部拠点活動の充実を図りながら事業や活動を展開していきます。



#### 活動項目

10. 支部拠点活動の充実をはかる
11. 地域福祉活動財源を確保する
12. 社協の組織と経営を強化する

# 第3次地域福祉推進計画

(愛称:支え合いふくしプラン)

地域福祉  
目標

## 推進目標

## 活動項目

だれもが安心して暮らせるふくしのまちづくり  
 「ほつとけない」をほつとかない宍粟に

- ① いざという時  
困らない  
地域をつくる
- ② みんなで  
支え合える  
つながりをつくる
- ③ 自分らしく  
生活できる  
仕組みをつくる
- ④ 社協を強くする  
ための組織基盤  
をつくる

- 1 地域の見守り活動を進める
- 2 だれもが気軽に集える居場所をつくる
- 3 平時から災害への備えを進める
- 4 地域が元気になる支え合い活動を進める
- 5 地域福祉を進めるために地域をたがやす
- 6 行政や関係団体等とのネットワークを強化する
- 7 SOSを見逃さない総合相談支援体制を強化する
- 8 情報共有体制の充実をはかる
- 9 総合的な権利擁護支援の仕組みをつくる
- 10 支部拠点活動の充実をはかる
- 11 地域福祉活動財源を確保する
- 12 社協の組織と経営を強化する

# 総合体系図

第3次地域福祉推進計画の進行管理については、  
「第3次地域福祉推進計画を進める会」で進めていきます。



## 個別活動項目

①福祉委員活動の強化

②自治会福祉連絡会活動の強化(地域見守り会議の設置)

③ご近所ボランティア活動の推進

④防災・福祉マップづくりの推進

⑤民生委員・児童委員との連携

⑥行政・民間事業者等が進める見守り活動との連携

⑦制度の狭間にある課題への対応

①当事者組織等の支援と連携

②集いの場や居場所づくりの推進

③空き家・空き校舎の地域づくりへの利活用の推進

④ひきこもり者等が社会参加できる場づくり

①地域内での要援護者台帳整備の推進

②災害救援ボランティア活動支援マニュアルの見直し

③災害ボランティア体制の整備(養成等)

④市社協事業継続計画(BCP)の改訂

⑤地域活動継続計画(DCP)の策定提案

①市社協としての新しい地域支援事業の取り組み強化

②住民主体の協議体づくりへの支援

③生活支援コーディネーター(地域支え合い推進員)の配置

④生活支援サービスの開発と充実

⑤市内山間部の集落福祉(集落再生と地域福祉の融合)の推進

①子どもたちが福祉を学ぶ環境の整備

②住民参加の学習会や勉強会の企画実施

③地域リーダーの発掘と養成

④退職世代等ボランティア活動者の拡大

⑤老人クラブ等高齢者の福祉活動への参加促進

①行政(地域包括支援センター等)との連携強化

②市内の社会福祉法人連絡会の組織化

③宍粟市福祉支援ネットワーク連絡会の活動強化

④保健・医療・福祉・介護に関する機関とのネットワークの強化

①市社協が担う中間支援組織としての役割の充実

②総合相談受付システムの有効活用

③介護・福祉相談の充実(職員すべてが相談窓口)

④暮らしの何でも相談所の開設

⑤生活困窮世帯への相談支援の充実

⑥結婚促進に向けた相談事業の展開

⑦専門的な相談機関との連携

①市社協内部での情報の一元化

②情報のシステム化(電子個人カルテ)

③行政との情報管理と提供のルール化

④障がい者等だれもに配慮した情報の発信

①日常生活自立支援事業の推進

②法人後見が担える社協づくり

③顧問弁護士の選定・契約

④障がい者の権利擁護を進める取り組みの強化

⑤西播磨成年後見支援センターとの連携

①支部推進活動計画の策定・推進

②支部地域福祉推進委員会の活性化

③各支部のボランティアセンター機能の充実

①財源の使い道の明確化(見える化)

②善意銀行預託の積極的推進(寄付文化の醸成)

③地域福祉活動と連動した新たな募金手法の開拓

④社協会費のあり方の検討

⑤新たな自主財源の確保

⑥地域福祉活動推進のための市補助・受託事業の展開

①職員の資質向上に向けた研修の実施

②職員育成を主眼にした人事考課の継続実施

③理事と職員の連携の強化と役職員業務研究会の継続実施

④地域福祉・介護等職種間の連携とスキルアップ

⑤社協のガバナンスと組織体制の見直し

⑥介護保険事業の経営改善計画づくり



「自治会の枠を超えた広域的な集いの場」として、波賀町北部(日ノ原・音水・鹿伏・道谷・戸倉)合同のふれあい喫茶が開催されました(11/23 鹿伏公民館)

**支え合いふくしプラン  
2年次の取り組み**

「だれもが安心して暮らせるふくしのまちづくり」、「ほつとけない」をほつとかない宍粟に」を地域福祉目標として定めている、第3次地域福祉推進計画（愛称：支え合いふくしプラン）。29年度は、支え合いふくしプランの2年次として掲げたさまざまな支え合いの活動や取り組みについて提案・推進しました。

9月には、支え合いの地域づくり講演会を開催し、近所福祉センターの酒井保さんを講師に、「ボンモノ」の支え合いつ

「宍粟市社協第3次地域福祉推進計画（愛称：支え合いふくしプラン）」の2年次の取り組みがこのほど終了します。

今月号では、29年度の推進状況を報告するとともに、30年度に重点的に進めていく取り組みについて説明します。



講演では、「あなたの地域は支え合っていますか?」との酒井先生の質問から始まりました(9/2 神戸小学校体育館)

**支え合いに大切な  
「人づくり」、「関係づくり」**

● 福祉委員研修会を支部ごとに開催し、認知症をテーマに事例を交えながら、福祉委員に求められる4つの役割『みつける・しらせる・つながる・ひろめる』について考える機会をつくりました。

● 第6期となつたセカンドライフ応援セミナーでは、元気な地域づくりをテーマに、集いの場や居場所づくりをお手伝いする「近所



「認知症になっても安心な地域をめざして」…各支部の会場には福祉委員406人が参加(7/13 千種保健福祉センター)



災害V養成講座の受講者に呼びかけ「災害ボランティアネットワーク」を結成(6/15 宍粟防災センター)

● 災害ボランティア活動の啓発とネットワークづくりを目的に宍粟市災害ボランティアネットワークを立ち上げ、11月には、宍粟市総合防災訓練に参加し、本会職員と災害ボランティアセンターの開設訓練を行いました。

● 学校や地域、事業所等で福祉を学べる機会としてふくしの出前講座(福祉学習会)を行い、職員をはじめ、それぞれの分野の専門職

や障がいのある方、ボランティアのみなさんが講師(ゲスト)として参加・協力しました。

● 28年度から配置の生活支援コートナーの養成、地域の宝物リストの作成等、2年間の活動や成果が力タチとして見えてきました。

今後は、旧町域や校区等で設置の委員会等に関わりながら、地域で暮らし続けるための支え合いを生み出す(仕組みをつくる)「地域を元氣にするための協議の場」づくりを進めていきます。

### 3年次の計画を 着実に推進するために

30年度は、支え合いふくしプランの3年次として、地域住民をはじめ、関係団体、専門機関、行政等とのつながりや連携を今まで以上に大切にしていきます。

見守り活動や防災、当事者支援、結婚促進など、連携なくしては進めることが出来ない取り組みばかりであり、これらを進めるためには行政等との情報共有体制の構築が不可欠です。



役職員業務研究会3班では、福祉学習をテーマに調査・研究を行っています。進捗状況は6頁で紹介(12/14 山崎小4年 車いす体験)

また、本会理事と職員で支え合いふくしプランの重点事業について調査・研究を行つ役員業務研究会を継続的に実施し、地域福祉サービスの資源開発や事業の推進に繋げていきます。

計画の進捗状況については、第3次地域福祉推進計画を進める会で点検・評価を行い、新たな課題には適宜対応していきます。

(地域支援課長 波多野好則)

読者の  
感想より

ひとり暮らしです。いつもお世話になってます(波賀町 女性)

平成29年度  
宍粟市地域福祉推進計画推進会議

第3次地域福祉推進計画  
の進捗状況(2年次)

日時 平成30年3月12日（月）

会場 一宮保健福祉センター

宍粟市社会福祉協議会  
地域支援課長 波多野好則

